

セキュアプログラミング WG

WGリーダー

株式会社 情報数理研究所 伏見 諭

■ いまなぜセキュアプログラミングか？

セキュアプログラミングは以前からある話題です。2、3年前に、e-Japanの重点項目の一つにひょっこり取り上げられて、脚光を浴びるかと思いきや、きっと課題があまりにも大きすぎたのでしょう、ある程度の普及を果たして後、マスコミ的な話題としてはすぐに下火になってしまいました。もっとも「アプリケーションセキュリティ」として見たときのWebのセキュリティは、さすがに一つの重点的な項目から外れることはありません。しかし、これも困難さはセキュアプログラミング全体と同様に大きなものです。

話題として派手になりえない要因は次のようなことが挙げられるかもしれません。

- 開発者のプロフェッショナルな課題だと思われる所以、利用者サイドが自分の問題と思わない。
- 開発者は、そのような問題があるのは知っているが、日々の仕事の中でどうとりあつかえばよいか確信が持てない。
- 開発企業は、元来そのような問題を企業の問題でなく個別の開発者の能力の問題だと思っているので、組織的な取り組みをするところがごく少ない。
- 問題自体が大きすぎて、個々のエンジニアの手に負えるものではないので、いつの間にか実践的には忘れられる。
- 商業雑誌の編集者は、啓蒙的議論で読者の興味をあまり引かないと思うので、重点的には取り組まない。



しかし、これらの背後で問題は当然深く潜伏して、日々「セキュアでないプログラム、システム」が量産されています。もっとも、系統的にソフトウェアを作成していくコミュニティ、企業では、セキュアプログラミングの重要性はいやでも認識されています。いろいろなオープンソフトコミュニティや、マイクロソフトのような企業はセキュアプログラミングの推進母体の一つとなるでしょう。しかし、ソフトウェア、システム開発全体として見れば、対応も盛り上がり方も不十分なままであります。

JNSAは、「ネットワークセキュリティ」という用語を名称として持っていて、このセキュアプログラミングの推進役としてはちょっと畠が違うかなと思われる方もおられるかも知れません。しかし、それにかまうことはないでしょう。少し腰を落ち着けて、必要な技術テーマを知恵を出し合って深堀りしてみませんか。単純に頭の体操としても面白い話題がたくさん転がっています。また、それを実際の開発・運用業務につなげていくことも十分手ごたえがあるテーマだと思います。

■ スコープ

セキュアなシステム、ソフトウェアの実現を「開発者自身の話題」として、技術的に問題とすべきすべての領域。広く言えばこれにはWebセキュリティも含まれますが、そのタイトルのWGはすでにJNSAの中にありますので、Webの話題は比較的軽く、必要なら一つの話題として扱いましょう。

上流のアーキテクチャや分析・設計の話題、狭い意味のプログラミングの話題、テストの話題、運用の話題、セキュア機能コンポーネントなどを含みますが、このWGでは現場的な目で見ることを重点としていきたいと思います。

■ 想定成果物

今のところ決まっていません。しかし、せっかく活発な方が多く参加されていますので、単に勉強会に終わるのではなく、開かれた成果物につなげて行きたいと思っています。

■ 当面の活動

活動を立ち上げたばかりで、現在は参加者の問題意識を相互に提示しあうことで、問題領域を整理することを行っています。広めにJNSA内の問題の捉え方を調査するアンケートなどの提案、課題を研究・整理する活動の提案、基礎的脆弱性情報(個別の製品の脆弱性でなく)を整理蓄積する活動の提案、セキュアプログラミングルールの整理・提示の提案などが出されていますが、これらをどうするかは参加メンバーの皆さんの意向で決まります。

問題意識のある方はぜひ参加してみてください。

また、WGへの参加形態も、ミーティングのほかにML上での討議参加などいろいろな形が考えられると思います。これも今後具体的にしていきたいと思います。